

國民性と經濟 (二・完)

——ヘルマン・レヴィに於ける一研究紹介——

室 谷 賢 治 郎

さて右の如き經濟生活を支配する二個の見解が明瞭となつたならば、英米人と獨乙人との經濟的國民性の相異を確證する事は容易となるであらう。固より英人と米人については其の原因が等しいとする事は許されぬ。英國では既述の如く、宗敎生活と特殊の清敎徒の經濟倫理とは近世經濟の初期に於て生産概念の定立に貢献した。之を現代にまで辿る事も出来る。例へば清敎主義は貧者保護の敵である。其の考へ方に従へば「貧」とは神の失寵と拋棄との極印である。失業は彼等にとり怠惰と同義である。「働かざる者は食ふべからず。」さればこそ本來の意味に於て不具者幼者のみが救貧を要するのである。之を清敎徒以前のカトリックの考へ方と比ぶるに、カトリックは救貧を國家の尊き義務であると考へるのである。歐洲大戰直前には失業保險に關し英人は、之を以て勞働者階級

の勤勉を滅却するといふ見解を抱いて居つた。他方、生産思想の意味に於ける他の潮流が之と相俟つて働いてゐた事、而もそれが特に英國經濟の幼稚なる十八世紀の終り頃の事なりし事も注意を逸してはならぬ所である。即ち自然哲學と道德哲學とが是れであつて、此の兩者は個人の自己責任及び自己活動の中に、將た健全なる競争の中に、乃至「合理的利己心」の中に、實際の經濟の立場からのみならず、一般倫理の立場からも或る望まじきものを發見したのである。斯かる理論の影響は今日尙英人の間に可なりに強い。個人が其の素質により最高のものに到達し得ること、就中之を追及すべしとの觀念、かゝる樂觀的なる、如何なる分配分析にも縁遠い生活格率が最も廣く行はれてゐるのである。自然に存する平等の理念は英人本來の自由貿易論の根據を爲すものであつて、其の支柱は純然たる計算的、經濟的働因と相並んで、自由交易に官僚の干與することを以て唾忌すべく、且つ「自然に反す」と觀ることの裡に存するのである。然るに米人の性格に對しては別個の個人主義的、自由主義的經濟觀が發生する。茲でも清教主義が自由概念の形成及び之に關係せる經濟的厚生發展の見解に貢獻した事は疑無い。且つ米人の自由闘争は「獨立」といふ理念をも深めた。にも拘らず、茲では其の以外に物質的働因を考察せざるときは正鵠を失するのである。云ふまでもなく米國の如く發展の速かなる經濟上の新進國は、群集より抜け出て個人的に偉大となる可能性が

比較的多い。而も斯かる機會の多いのみならず、其の成功譚は一般人の耳目に入り易く、何人にも英雄たらんの欲念を起さしむるに十分である。而して斯かる階梯に到達し得るは「適者生存」の原理によると考へれば則ち足り、特殊の倫理的基礎づけは之を必要とせぬのである。斯かる地に於て分配の原理が生産増加の目標の背後に斥けられるのは、極めて當然であると云はねばならぬ。

他方獨乙に於ては社會民衆黨に對し屢、獨乙社會主義と同様、祖國を失ふことにより他國の労働者階級の考へと異るとの攻撃が有力に加へられた。茲に祖國を失ふといふ意味は、自由貿易と云ひ世界經濟政策と稱するも實は根本的には國民的色彩が強く、國民の經濟的進歩を各國民の商品交換促進により高めんとするものに外ならぬから、眞に之と別に人類全體に奉仕し、限られたる國民經濟的可能性以上に出でんとする理想を有すと考へるからである。其の例は國際的八時間労働制を考へれば判然する。八時間労働制は固より國際的社會政策の努力に値する目標である。乍併、獨乙國民の如く労働を喜ぶ圈内に於ては、今日の如き經濟的不景氣の時代に八時間制を布く事は經濟上極めて不利であると謂はねばならぬ。即ち資本の必要、及び之に關聯せる技術改良の適用困難なる時に當り、時間を短縮する事は徒らに生産費を高めることとなる。にも拘らず、國際的労働組合は獨乙労働組合が八時間労働を行ふやう激勵することに百方策を講ずる。是に於てか、社會主義に於け

る非愛國的(不愛國的に非ず)要素は、古き國家との鬭争に存するのではなくて、次の學說による國民經濟的思考の冷淡に存することが明かにせられる。即ち、(一)は國民厚生概念に絶對に服屬する所の生産思想の學說、(二)は國際的、社會政策的願望の視角の下に經濟的政策問題に對する興味的重要なる部分を押しやる學說是である。要するに何等かの理念定向の爲め國民經濟の生産的要求を否定するのは、今日の如き經濟組織の下に在つては不國民的であり、且つ此の意味に於て不愛國的となるのである。

右の如くして、國民性の生産主義的方針と分配主義的方針との區別は國民經濟の單に一定の部分、但し甚だ重要なる工業的部分にのみ關するものである。即ち一方に企業者と他方に無産の労働者とが生じたる所に始めて經濟的の相異が潜むのである。勿論、大規模の經營に發展せる商業の場合にも此の種の傾向を見出し得るが、農業の場合には之と異り社會主義乃至社會主義的思想の發生は各種の狀況に依存する。就中、經營の發展と所有の發展とが資本家的大經營の組織に向ふか否か、即ち多數の無所有の労働者が現はるか否か、將た斯くの如き僅かの所有の可能性は單に分配せんとその本能を最初より斥けるか否かの事實に依るのである。斯くて社會改良に理解を有する農業政策家により絶えず力說せられる事は、農業の小規模制度の裡に大いに社會的なる慰和の働因が存

するといふ事である。即ち例へば英國では Lord Salisbury, Joseph Chamberlain, Jesse Collings の如き人は「三エーカーの土地と一匹の牛」を唱へ、社會主義に對する保護としては農業労働者の定住と獨立とより以上のもの無しと説いた。之によつて今日の農業組織が甚だ多種の影響を國民性の構造の上に及ぼして居る事が明白となるであらう。英國ではトマス・モアの時代（即ち「山羊は農民を食ふ」といはれた程、大なる牧畜業が小農を呑噬せる時代）に所謂郷紳エオマンは没落したが、獨乙では諸侯の保護並びにグルンドヘルシャフトの僧侶制度が土地大資本の攻撃に對する城壁を爲した。又、英國では夙に自由農民 free holders が小作人に墮したる爲め今日は一般に小作制度が行はれてゐる。之れが農民を土地より離れしめたる特質に外ならぬ。従つて今日は英國では獨立の、但し土着せざる農民と、自己の土地の一片をも有せざる農業労働者とが、資本家對労働者關係を爲すのである。

右の農制に於て國民の經濟心理に影響せる所のものは企業者對無産者の間に存する一定の傳統主義に外ならぬ。言ふ迄もなく、此の傳統主義は他の時代の遺物であるが、其の代り現存の範圍内に於ては國民性の構造の上に夫以上の意義を與へるのである。現代式の大資本家的性質の企業は其の收益努力に於て「飽く事を知らぬ」致富に向けられる。米人にとつては營利に於ける「無限」の名譽心こそ、常に新しき計畫に向はしむるものなのである。而して商工業組織の發展は企業の集中とな

つて現はれ、茲に農民は先祖よりも落魄せざらんことを只管望み、小商人、手工業者亦専ら其の存在の維持を考ふるに至つた。仍て今、獨乙の中間階級 *Mittelstand* と英國の中流階級 *Middle class* とを比較せんに、英國の中流階級は「上流」階級と労働大衆との間に位するところの階級に對する社會的名稱であるに反し、獨乙のミッテルシュタンドとは共通の經濟的目標及び組織を示す所の國民の、職業上同質なる階級を謂ふのである。而して之により英獨の社會學的構造の相異は極めて重要を帯びる。即ち獨乙ではミッテルシュタンドの成立は農業經營及び手工業制度の中に求むべきものであるが、併し之よりも重要なる、同時に傳統的に存する二階級があることを知らねばならぬ。其の一は役人階級であり、二は教養の特徴により特色づけられる自由職業者と教育者の階級である。此の二つの階級が單なる「店番人」*shop-keeper* の本能と反對に立つものなることは謂ふ迄も無し。

右の階級形成が公的生活に於て有する意義、之が經濟形態や經濟政策の思潮に影響する程度は、本來勿論其の「社會的」評價に依存する。例へば大學教授の勢力は英獨に於て異なるし、——バアマアストオン卿曰く獨乙は「呪ふべき教授」の國なりと——小工業を營むミッテルシュタンドの地位も獨米に於て同じではない。先づ英國の社會は長き資本主義的、議會的政治デモクラシーの典型的

成果であつて、所謂「最高」階級、アリストクラテイー、ブルトクラテイー及び今日現存のスクア
イアダムといふ一定の範圍に全く一義的に分たれる特色を有する。英人にとつては社會關係の構造
は階級ヒルアキッキン的以外に考へられぬ。斯かる社會階級は凡ゆる市民の自由平等てふ絶對的にデモクラチツ
クなる見解とは相反するのである。翻つて獨乙に於ける「役人仲間」や「教授仲間」の與へる影響
大藝術家、大著作家の「社會的敬意」の意義を顧るとき、何故に此の國では各種社會階級の並列關
係が維持せられたが分明する。英國では藝術家は云はゞ職業的人間である。彼は藝術といふ職業を有
つのであるから、彼を社會的立場よりして他の凡ての職業的人種以外に評價する事は許されぬ。兎
もあれ國民にとつて、其の行爲が専ら「事務的」といふ立場から行はれぬ事は有利なことであつて、
全世界の人が獨乙の醫者を其の事務的ならざるの故を以て讃へること、戰前獨乙を仕事好きにして
献心的の役人制度の故を以て妬みたること、多くの「助手」が低い俸給と芳しからぬ労働條件を以
て大なる物理學的・化學的・生理學的任務の爲めに働いたこと等は何れも理由無きことではないの
である。

乍併他方に於て「名譽」の爲め「肩書」の爲め乃至は「年金を受くる權利」の爲めに働く事は經
濟的性格の伸長の上には面白からぬ効果を與へ、多くの人に自由に其の能力を開發する餘裕を残さ

ず、従つて適材を庸材以下に取扱ふことあることを注意せねばならぬ。但し獨乙では役人的要素が經濟上の發展に資した事は謂ふ迄も無い。蓋し經濟の進行は力の著しく開展する時と既に飽滿せる時との間に於て變動あるを免れぬからである。一八五〇年より八〇年に至る頃までは發明發見相踵ぎ、近世の大經營を見、經營の集中が始まり、運輸交通機關の改良より今日の世界經濟を開く基を示した。而して斯かる新傾向を利用すべき個人の機會が惠まれる事となつた。斯かる發展と相提携しては更に個人間の自由競争、國家間の自由貿易の運動が生じた。其の最も顯著なるは米國の發展で、此の國では商工業界に於ける巨頭の典型を作り、所謂石油王、鋼鐵王なるものを生んだ。而して大事業は夫等の「王」たる個人と共に或は盛になり或は衰ふるといふ状態に置かれてゐる。獨乙の大銀行も正に此の種のものであつて、銀行の創設者の意思は次の代へも相傳へられる事となつた。同様に技術の進歩と相俟つて嘗て知られざりし組織の要求が生れた。例へばコンツェルン、カルテル、トラスト、シンデケートを形成するといふが如き、尙又、大なる企業財政の問題、個人營業に代る株式會社の問題、其他勞働問題等を生ずるといふ如き是れである。斯くて今日の企業者は單に己れ一個の工場内に於ける責任を考ふるのみを以ては足れりとせず、社會政策、經濟政策の上に及ぼす自己の地位をも併せ考ふる必要に迫られるに至つたのである。即ち、純然たる組織的の

ものに對する要求が強く現はれ、發展的のもの、競争的のものに對する要求は比較的弱くなつたのである。斯く大工業の最近の發展により與へられる獨得の組織は之を競争に對して考ふるに、獨乙の經濟心理にとり大なる利益であつた。英獨兩國の事情に詳しきハルデー子爵の言は味ふべきものがある。曰く、「英人は觀念に従ひ、獨乙人は概念に従ひ行動する。英人は獨人よりも着手する以前に抽象的計畫を考慮せぬ。之が英國の個人主義の特色の結果であつて、經驗の教へる所に由れば斯かる素質は英人の長所であると同時に短所でもある」と。

又、ローズベリー卿も嘗て、今日の官僚化は「國民の性格」を變へると述べた。反之、今日の工業が官僚的になればなる程、また組織的、科學的、技術的準備が大會社の樞機となればなる程、獨乙人の精確、組織化、合法則性に對する傾向は重要となるのである。而して茲に經濟に對する國民性の意義を評價する事は固定的のものたり得ずといふ事が示される。經濟の方法、組織、進行等は彼此の特性により或は特別に用ひられ、或は弱點として斥けられるのである。

英獨に於ける右の如き階級形成及び社會構造の相異と一部分關聯するものは、兩國民が其の世界經濟上の活動に於て示す所の相異である。即ち英人は經濟以外の活動に對しても絶對的の「開拓者」本能を現はす。英人は生れながらにして植民者である。従つて英人の經濟以外の成效は植民事業が

創始せられた頃に收められた。反之、獨乙人は最初から既存の經濟組織に系統をつけやうとした。而して其の海外移住者もミツテルシユタンドの農民や手工業者であつた。最近までも多くは、然うで、此等の者は祖先の生活慣習に對する傾向を保持し、「新世界」の英國式生活慣習に全く適せぬ。然るに今日は「植民者」及び「ミツテルシユタンド移住者」には新しき型が與へられた。即ち海外商人の型が是れである。而して茲で獨乙人は新しき機會を捕へたるかに見ゆる。蓋し獨乙商人が英國商人よりも卓越せる特性が二つあるとは英國人により絶えず稱せられる所である。即ち一は、獨乙商人は其の高等教育を享けたる者多き故、諸外國の國語に通ずる點、二は外國商品の需要に適するやう努むる點である。英人は之に比すれば保守的であつて、品質の上等を第一義と心得、價格の問題を第二次的に考ふるのである。

國民性の分化の問題は、同一の經濟國家の内部に於ける純然たる「國民的」相異を考ふるに非ざれば説明し得られぬことが多い。今、之を二様に分けて考へる。即ち、一は其の民族上、宗教上、乃至以前の國籍上、永續的に又は一時的に、他の民衆たる「本來の」人口の多數と對立する所の一部國民の分裂であり、二は斯かる一部國民の流入や分裂に基かずして當該國に定住する國民についての相異である。民族學研究者や人類學者には興味ある問題であらうが、經濟學者としては斯かる

相異の存する事が經濟行爲及び經濟心理の上に影響することを考ふれば十分なのである。而して先づ第一の場合につきては二様の考へが存し得る。流入する民衆が既存の民に影響を與へる事は場合によつて異なる。例へば十七世紀のユーグノー教徒の移住は當時の英國の國民性の上に少からぬ影響を與へ、また獨乙人の新大陸移住者は米國の或地方に英人や蘭人の移住せる地方と異なる特色を植ゑつけた。他方、斯かる流入者を吸収することは例へば米國が南歐人や、東歐人の比較的素朴なる性質を米國化する場合に見らるゝが如くである。固より此の場合、同化の速度や強度は國民の特質に俟つ。又英國の如きは生活の形式的統一性を尙び特殊性を斥ける社會的關係を有するが故に、英國内に住む猶太人の特徴は露國內に住む、猶太人とは甚だ趣を異にしてゐるのを見るのである。次に、國民の内部に於ける特質の相異については、例へば經濟生活に於て各獨、佛、伊の國語を用ふる瑞西人は其の道徳上にも相異を有するが如き類である。茲では瑞西の國民性は何等の役割をも演じて居らぬのである。同様に英蘭と愛蘭との間にも、經濟上統一的なる基礎を缺くが故に相互の融和が動もすれば破られるのである。總じて「民族」間の對立が純然たる物質的、經濟的領域に横はること、他方相互に對立せるものに「國民性」の特質が因由するものなることを知らねばならぬ。一國內に於て民族の不等なることが經濟生活の對立的構造と一致する事は疑無い所で、南イ

タリア人と北イタリア人の相異は茲に存する。獨乙では所謂「特定主義」の中に國民階級の特色が保持せられ、之の餘燼が生活様式に残つてゐるのみならず、立法行政の内容にも現はれる事がある。例へば各聯邦により郵便函の色を異にし切手を異にせんと議ある如きは其の表徴である。但し、米國の各州が經濟上の立法につき(トラスト禁止の如き)態度の同一ならざる事ある如きは、傳統に囚はれざらんとする努力に外ならずして特定主義と見るべきではない。

右の特定主義的分化と關聯し一部分之により制約せられる相異は、人口の地方的分布よりして發生する。一國の社會生活、文化生活が専ら中心點即ちメトロポリスに結びつけられるか否か、或は茲に著しき分散が存するか否かは重要な重味を有することである。例へば一九二一年の統計にて英國本國人口四千二百九十萬の中、大倫敦に住む者七百四十七萬であること、獨乙人口六千五百萬中、伯林に住する者三百萬であること、換言すれば一方は全人口の約六分の一を占め、他方は約二十分の一を有するといふ事は特色ある事に違ない。但し、問題は人口が一方に於ては首都に、他方に於ては大小の都市に分れるといふ事ではない。重要な事は、人口の地方化が何を意味するかを理解する場合の社會學的様相である。大工業國に於ては佛國の如く地方的存立を保持するものは他に無い。巴里は一九二一年に全人口三千九百萬の中、約三百萬を有したるに止まり、五十萬以上

のものはマルセイユとリオンの二都のみである。獨乙では一九一〇年五十萬以上の都市は六、三十萬以上のものは四であつたが、佛には三十萬乃至五十萬以上の都市は上記の外一つも無い。而も、巴里は佛國であると言ふ事がある。蓋し、佛の公的生活の焦點は巴里に存するからである。英國では倫敦以外の經濟的中心地が重要なる影響を全國に與へる事がある。例へば、「マンチエスタ」が今日考へることは、世界が明日になつて考へる」といふ諺の存するのは之れが爲めである。乍併、如何なる場合にも社會學的立場よりするとき、獨乙が、今日地方的獨立を存する諸國の中最も優越してゐる事是否み得ぬ所である。英國では各都市の新聞の内容は何れも大同小異でたゞ／＼新聞王ノースクリフの偉なる事を讃へればよい。又、大學都市と稱するものも少く、大學内はスポーツの外は世間と没交渉なること恰も僧院の道場に類する。況んや、獨乙に見る如き美術都市（ワイマール、ミュンヘン）は英國では見られぬのである。其の結果は事實上國民の教養の上に少からぬ損失を與へてゐる。此の點に於ては獨乙の地方都市は、恰も倫敦にとつて必要缺くべからざる郊外の休息所の如き役割を演じ、夫々生活内容を豊富にしてゐるのである。畢竟、都市への人口集中より離れる事は獨乙の地方文化をして其の生活様式の支持者たらしむるものであると云はねばならぬ。

此の觀察は高級なる文化生活や藝術が、國民の社會學的性格に影響を及ぼす限りに於て夫等の領域に關して觸れたものである。然るに他方、既述の如く國民の經濟的立脚點は相互作用を爲し、文化活動と衝突し得る。例へば宗教思想は文化的知性の立場よりは高く評價せられやうが、經濟上よりは逃避を意味するものとせられる。又、ソヴェット原型の共產主義の如きも熟慮を俟たぬ無政府主義的の政治的知性の表現ではなく、何等か往時の理想國家論を目標として熟慮せる上の産物であらう。然るに之は實際の狀況を顧みずして却つて其の根據を破壊する事となつた。之を英國民の藝術に對する態度について見るに、英國民は藝術を以て、仕事の疲れを休める爲めのものとする。されば藝術の「自己目的」といふ事は考へられ得ず、藝術は慰安の爲め存し、更に倫理上の生活目標に役立つため普及せしむべきものと考へられる。現に倫敦の劇場二三十ある中、眞の藝術的價值あるドラマを上場する所は一二ヶ所のみである。バーナード・ショウの眞價值を發見し得ぬ人が今日英人間に相應に多い事も敢て異とするに足らぬ。即ち、「めでたし〜」を以て結ぶ戯曲が喜ばれるのであつて、此の事は活動寫眞の場合も同様である。藝術の表現に於ける惡は凡て善の反映としてのみ考へられるといふわけである。モーパッサン、フローベル、シュニツラーの考へが英人に理解せられざる所以は茲にある。之に反し獨乙では、經濟以外の活動、例へば宗教や政治や藝術等は自己

目的を有するものなるが故に經濟的統一や排他性の見地よりは惡影響を受くと考へる。之等が國民性の分化せる文化要素として價值ありとせられることは、既に述べた獨乙の中小都市の文化生活や、英のミッドルクラスと區別せられるミツテルシュタンドの教養に顧れば明かであらう。即ち「倫敦に詩人を送る勿れ」と叫んだハインに倣うて「倫敦は詩人を要せず」と言つて差支ないのである。

英獨の國民性の相異に關し眞摯なる觀察を加へたる英人マシュー・アーノルドは嘗て英國風と猶太風との類似を示し、之を共にヘブライズムの現はれと見て、ヘレニズムと對立せしめた。「ヘレニズムの最高の理念は事物を其の在るが儘に見ることである。ヘブライズムの最高理念は行爲と服従とである。何物も此の根本的相異を抹殺し得ぬ。希臘人は肉體と其の情慾とを以て苦しめる。蓋し此等は正しき思索を妨げるからである。猶太人の憂慮は、肉體の情慾は正しき行動を妨げるといふ事に存する。

ヘブライズムが一定の、單純なる根本的なる世界秩序の解明に眼を向け、極めて大なる熱心を以て研究と其の忠告とに注意するに反し、ヘレニズムの方向は柔順なる活動を以て世界秩序の序列全體を捕捉し、部分の如何なる誤謬をも辿り、彼此の解明が如何に重要に見えやうとも之に満足せずといふ事の裡に存する。精神の曇り無き明澄、思想の無碍の活動が其の目標である。ヘレニズムを

支配する理念は意識に於ける自發性である。ヘブライズムを支配する理念は良心の強味である。]畢竟、獨乙人はヘレニズムの理想に近づかんとするものであると云うて宜い。

四

終りにレザイは結ぶ。國民性に於ける統一性は常に之を同質的のものとして見てはならぬ。例へば經濟生活に於ける英國人の統一性を以て經濟的性質そのもの、完全性と混同してはならぬのである。既に述べたる如く國民性に於ける或る組織的素質は一定の經濟制度にとり極めて重要なるものであるが、英國人は此かる素質に於ては優れて居らぬ。他方、英國人にとつては其の技術上の保守主義は損失を爲して居る。斯くて英國人の經濟心理の統一性は、健全なる競争、商業上の厚生等經濟的性質を有する一定の特質の上にのみ及んで居るのであるから、それが強く現はれるのは多くの異質的性質を帯びたるものを結合するからではなくて、經濟以外の影響を熱心に排撃するからである。されば英國經濟學の特徴も多面性の裡に存するのではなくて、事實にのみ統一的に嚴格に限るといふ點に存するのである。而して英國人の經濟的性格に於ける統一性は米國人のそれとは畢竟異らざるを得ぬ。詳言すれば米國人の經濟を營む統一性は經濟的生產方法の特性に基くのであつて、寧ろ

必然的である。然らば之は何から生ずるかと言へば、それは慾望の絶對的機械化から生ずるのである。之を名付けて等形性 *Gleichförmigkeit* と云つても宜い。而して斯かる慾望の機械化たるや機械化せられたる分業の結果に外ならずして、之無くしては米國は到底其の經濟上の富を獲得し得ぬのである。されば米國人の統一性に關する一切の觀察の出發點を爲すものは、此かる機械化せられたる分業に導く關係如何でなければならぬ。然るに米國に於ける生産行程の機械化はまた特殊なる販賣關係の結果である。云ふまでも無く天産豊富にして人口稀薄なる國での近代工業化の前提は、先づ第一に遠く隔たれる生産地と消費地とが、適當の交通機關によつて結びつけられることでなければならぬ。此の生産地と消費地との分離、並びに部分的には生産行程そのものの地方的分離は、大量生産及び大量販賣を外にしては考へられぬのである。米國の大量生産の中に何等か米國特有のものを窺はんと欲せば須く此の點に注意せねばならぬのである。然るに米國で大量販賣に對する前提が與へられ、従つてまた大量生産に對する前提が與へられてゐる所には、第二の必要として此の大量生産を可及的に熟練労働に分割し、云はゞ機械化さねばならぬ。而も人口稀薄の地に在つては大量生産を行ふにも労働節約の機械を以てせねばならぬ。斯くて、遠隔の地に大量販賣する可能性と、機械の爲めに手工業を除斥する可能性との二つが今日の米國式大經營の前提となつてゐるのである。

それは更に又米國の生産の類型化 *Typisierung* を條件づけたものである。何者、大衆の欲望充足の必要は同種のもを與へることの中に存するからである。斯かる類型化の可能ならざる所には、今日米國の勞働は存せぬと謂ふも過言ではない。進んで生産の類型化が更に二種の影響を及ぼすことは注目を逸してはならぬ。消費を簡單にし、勞働者を特化せしむることが是れである。兩者は一見對立的の如く見ゆる。何者、消費を簡單化することは欲望を統一化すること、等しく、また勞働を特化することは分化を著しくすること、等しく見ゆるからである。併し乍ら此の對立は、之を國民性論上の影響に顧れば外見的のものなる事が知られる。蓋し米國の消費者と並びに米國の勞働者にとつては「類型化」の影響は同一だからである。詳言すれば米人の趣味が略多方面に非る如く、勞働者は個々の機械的行爲に機械化せられ、此の意味に於て類型化せられる。米人の考へによれば、機械の構成部分が代置せられる、如く、勞働者は他のものと交代せしめられる。即ち此の點に米國人の經濟生活の統一化が存し、此の點よりして其の國民性の「統一化」が經濟的に説明せられるのである。米國の例は偶以て國民性の統一要素たる類型化が一定の、甚だ顯著なる經濟的前提條件に依存すること、此の「統一化」は云はゞ「技術進歩に對する尊敬」や「一定國民の文化的性質の模倣」の如く單純に是非せられず、單なる意志によつても移されぬものなることを示すもの以外

ならぬのである。

右の如き經濟生活の米國化は、ユリウス・ヒルシュ教授の名付くる所に從へば「等形の文化」である。其の一端は言語や表現方法に現はれ、米人は成るべく簡捷を尙ぶ。従つて方言が少くない。其他、廣告の助けを藉りて使用品を類型化するのも其の例に漏れぬ。固より廣告は米國特有のものではないが、併し米國が廣告の國たる事は否み難い所である。斯くて價値の標準は個人自らの評價の範圍外に存し、商品は商標によつてのみ賣買せられることになるのである。而も生産の類型化と消費者の依他心との關係は國民性に關して言へば、決して單なる經濟的效果を與ふるのみに止まらぬ。恰も中世に於て身分が社會上の地位を決定したると同様、米國に於ては現在生活財を取得し得る程度が社會的地位や自らの社會的自覺の程度を決するのである。

米國に於ける生産行程の機械化並びに類型化の前提が其の國民性に及ぼせる影響は右の如きものである。併しながらかゝる物質的の前提の外に尙、歐洲に比ぶれば著しからぬ階級や、宗教の分化經濟主體の傳統的性質の缺如、其他中産階級の一般的教養の低度等をも考慮せねばならぬ。而して今日は歐洲にも此の種の傾向が現はれた事は極めて注目し得る所である。例へば獨乙では革命以後從來の貴族主義的階級社會の基礎は破壊せられ、有閑階級は滅亡した。其の代りに社會的地位は

肩書や名譽によるよりも財産の所有によることゝなつた。ミツテルシュタンドの傾向も米國式の類型化を追ふやうになつた。女子店員は活動寫真雜誌を耽讀し、俳優の寫真を蒐集する。従つて雜誌の側も未成年者を驚かすやうな技術進歩の事を掲げ、又、劇場等でも戯曲の全部よりも一齣のみを上場するといふ風がある。之を要するに一國民が特に強い機械化と等形性にと支配せらるれば其の方法は、他國民の機械化傾向をも大いに促進せしめるものである。

然るに他方、資本主義は何等國民性を知らぬとも謂ひ得る。例へば、生産方法の等形性は世界全體に浸透し企業者を國際カルテルに加入せしめる。同時に労働條件の等形性は國際的労働運動を惹起し、其の具體的表出として今日の國際的労働組合を示す。斯かる資本主義的國際化は之を社會學的に言ひ現せば、正に超國民的人間、詳言すれば一切の國民の乃至は國民性論上の性質を失ひ「超國民」*Über-Volk* を形成せる人間の出現である。而も超國民的人間とは「世界經濟」なる言葉と同様に何等か概念的のものと考へられる。蓋し今日何等國際的國家存せず、従つてまた國際人とは單に多くの國民に共通なる性質を組成せるものと考へられるからである。斯かる超國民的人間は、近世資本主義の典型的所産として、經濟史上資本主義の最初の支持者たる國民より種々の性質を攝取したものである。従つて超國民的人間は非宗教的であり、或は其の宗教たるや經濟に及ぼす悪影

響を奪へるものであり、其の意味に於て著しく英米式である。同様に超國民的の人間は經濟生活の他の束縛の加へられざる所に最も強く現はれるのであつて、他の大都市の制度より多くの特性を受けて居る。例へば柏林市民、紐育市民、倫敦市民の如きは都會人として等形性を有し、之が國民的特性を著しく水平化してゐるのである。

最後に、如何なる程度まで國民性の分化に國民經濟的資格が維持せられるか、如何なる程度まで之を超國民化より遠ざけしめることが可能なるかの問題を生ずる。而して是れ現代生活全體の最も困難なる問題の一つたるを失はぬ。既述の如く厚生概念は主觀的、相對的のものであつて、専ら純經濟的目標としては觀察せられぬ。換言すれば「國民厚生」の概念たるや、精密なる數量の問題に非ずして、目的定立と手段の概念である。されば精神的、乃至文化的財の享樂を以て厚生と考ふる國民は、此等の享樂を經濟生活に下屬せしむる國民とは、經濟進歩の爲めにする欲望の統一性に關して異なる見解を抱くであらう。然るに統一性は完全性を意味せぬ。例へば國家が完全なる場合は蓋し其の國民が國際分業により與へられたる經濟化の程度により、文化の特性たる倫理、知識、美術を擁護し發達せしむるに熟せるを謂ふのであつて、露國がツァールの帝國より勞農國となりたればとて即ち、統一化せられたりとして決して完全なるものとなつたとは謂へぬのである。夫故、國

民の分化せる性質を經濟化の要求と調和せしむることが必要である。然るに茲に二つの危険がある。一は國民性に對し外敵より保護することを許すところの努力、即ち感情、敬虔、國民主義、排外主義等の働因より生ずるところの努力である。斯かる國民性論的保護主義は獨乙の如き、中世の民族國家と大差無き國にても、または米國の如き生活の等形に慣れたる國家にても見られる。二は専ら經濟的の性質を與へることによつて分化せる國民性を強制する危険である。例へば、米國の「等形の文化」を歐洲人に宣傳せんとするが如き是れである。然るに之に反して、分化せる國民性を根絶せざることが却つて重要な富の基礎を維持する事がある。而して是れ十九世紀に可能なりし事であり、また現在に於ても米國式文化を忌避する者の存する所以でもある。されば超國民的人間の思想、及び離國民的「超國民」の思想は、分化せる國民組織を維持せんとする者を恐れしむるに及ばぬのである。

他方、現存の國民性分化の思想は純然たる經濟に立脚せんとする範圍の代表者よりして「超國民」の進歩を阻止するものと觀らるべきものでもない。畢竟するに、國民性の概念が政黨政治的、世界政策的其他の感情により歪められたる目的の爲めに、實際の思想行程を考慮せる視察を缺くとせば悲しむべきことである。而して茲にも亦古き生活の維持と新しき生活の前進力との間の路が見出され

ねばならぬのである。

五

以上レヴィに於ける國民性と經濟に關する研究は、國民性の系統を綜合的に敘述せんとの企圖に成れるものなることは明かである。彼の企圖が如何なる程度まで成效して居るか否かは固より識者の嚴正なる批判に俟たねばならぬ所に屬するが、唯だ彼が英米獨諸國民の類型 *Ideal-typen* を求めて相互の對立を説ける確乎たる立場は之を閉却してはならぬ。本書序文を缺き代ふるにマックス・ウエエバアの次の語を書題の下に書き誌してあるのを見て、其の用意を知るべきである。曰く、「典型的概念型式 *idealtypische Begriffsformeln* によりてのみ個々の場合の考察に入り來る觀點は經驗體と類型 *Ideal-typus* との對立の途上に在り乍らも其の特性の儘に現實に闡明せられる。」と。

従つてレヴィは國民性論研究の方法として從來歴史的方面、詳しくは發展史的方面より爲されたものを杜撰皮相なりとし、ライプチツヒ大學のカアル・ウイルドハアゲンの「英國々民性」(一九二五年刊)に批評を加へて居る。此の點は殊更上の *Resumee* に省略した箇所であるが、要するにレヴィに従へば歴史的に與へられたるもの及び發展に適へる素質よりして、國民經濟的合法則性を

導出せんと欲するのは甚だ非科學的なる仕事である。歴史の研究は寧ろ國民性一般の、對立を闡明し理解せしむる役をせねばならぬ。一國民が「昔から」「然く」あつたといふ事實は、何故に其の國民が「今日」然く「ある」かといふ證明にはならぬといふのである。斯くて經濟學に於ける所謂歴史學派の影響を超克し、其の代りに國民性の現在の形態の能ふ限り精確なる知識を樹立せんとするのがレゼイの立場なのである。